

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。〔A…よくあてはまる、B…あてはまる、C…あてはまらない、D…まったくあてはまらない〕

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

「よくあてはまる」で評価
()内は「よくあてはまる」「あてはまる」
合わせたポイント

A…とても良好
B…良好(目標)
C…検討が必要
D…再検討・改善

Table with 10 columns: 重点, 経営ビジョン, 具体的な取組(重点項目), 質問紙NO., 評価の観点, 達成基準, 5月, 7月(現状), 結果分析・改善, 学校関係者評価, 次年度に向けて. It contains detailed evaluation data for two main areas: school management and student learning.

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート(家庭学習ノート)の書き方の指導、展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム(全校生徒で学習する時間)を実施 ・テスト前にガリ勉タイム(自主学習時間)の確保	⑧ 生徒	学んだことをふり返ったり(復習)次の授業の見通した勉強(予習)を家でしている。	Aのみ A-60% B-50% C-40%	32(86)	36(85)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒は85%だったが、「よくあてはまる」と答えた生徒は36%であり、目標には到達しなかった。1年生で「あてはまらない」と答えた生徒の割合が高かった。家庭学習ノートの取組はしているが、授業に直結する予習復習を家庭学習で行うということが十分に定着していないのではないかと考えられる。 【7月評価時点での成果と課題】 今後も、自主学習ノートの推進を進める一方で、具体的にどんな予習復習を行ったらよいか、家庭学習の方法を教えるなど個別の指導を行っていきたい。 ○目標・計画の再設定(Action) 家庭学習の取組は個人差が大きい。数値目標は変えず、毎時間ごとに小テストを行ったり、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。	(前期) ・アンケートの中で「家で読書をしている」という設問があり、中学生の忙しさが表れた結果が見える。日頃から活字を読む指導をすることが語彙力をつけ、ガリガリノート(自学ノート)の質の向上につながっていくのではないかと見えているという環境をつくることも大切である。 ・ドリル学習が必要な子、調べ学習ができる子など様々でよいが、何をしたらよいかわからない子にはネタをあげる個別指導が必要である。
			⑦ 保護者	子どもは家庭学習の習慣がついている。	A+B A-85% B-75% C-65%	84%	83%	B	B	
			1 2 教師	家庭学習の習慣化のための取組をしている。	A+B A-90% B-80% C-70%	89%	88%	B	B	
3	豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒 【2. 具体的な取組み(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・個人ポケットを利用した道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえものの羽」(友達の良い行いを伝え合うカード)の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持や良い行動を伝え合う	⑪ 生徒	友達の良い行いや長所を見つけることができる。	Aのみ A-65% B-50% C-35%	50(92)	46(95)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「思いやり」の項目では生徒、保護者、教師の観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行い」の項目に関しては、「よくあてはまる」では4%下がってC判定であり目標は達成できなかったが、「あてはまる」と答えた生徒の割合も含めると5月より4%高くなっている。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つけ発表し合う「とりごえものの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。この活動を行うことによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。 ○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえものの羽」の取組は浸透していると考えられる。今後は質の高まり、向上を重点的に行ってきたい。具体的には生活目標と関連を図ったり、テーマを絞ったりすることで、広い視野を持って「思いやり」について深く考える機会となればよい。また、「とりごえものの羽」以外に、各学級での取組も行うことで、さらに効果を上げていきたい。	(前期) ・テストの結果が悪いと自信が持てないように思う。自己肯定感の低い子は、本心でしゃべってはいないのではないかと「とりごえものの羽」も記名式だと書きにくいので、生徒Aとかに自由に意見を述べたりできるのではないかと、自分を隠し、自由に発言できる方が楽しめると思える。
			1 5 教師	互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	A+B A-90% B-80% C-70%	89%	100%	B	A	
			⑫ 生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	A+B A-95% B-85% C-75%	90%	94%	B	B	
			⑩ 保護者	子どもは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	A+B A-95% B-85% C-75%	93%	96%	B	A	
			1 6 教師	道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育てられている。	A+B A-95% B-85% C-75%	67%	70%	D	D	
3	豊かな心と健やかな体を育てる	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑬ 生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	A+B A-95% B-85% C-75%	92%	94%	○7月評価(Check) 【評価・分析】 地域とのつながりが深いこともあり、「あいさつ」の項目については生徒、保護者ともに「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた割合が高かった。自律清掃に関する項目については5月の実態調査から「よくあてはまる」のみで達成基準を設定したが、8%下がる結果となった。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒会のあいさつ運動や育友会のあいさつ運動などが成果につながっている。自律清掃については「あてはまる」まで含めると90%以上の高い割合を示しているが、「よくあてはまる」の割合が下がっていることは、自律清掃への取組についての趣旨を再度確認する必要がある。 ○目標・計画の再設定(Action) 自律清掃は「学校をキレイにするため」ではなく、「人間として成長するため」であることを押さえ、「意志力、情操、創造性」を自分自身でしっかり磨く意識を高めるような働きかけが必要である。	
			⑨ 保護者	子どもは学校や地域で元気にあいさつしている。	A+B A-90% B-80% C-70%	89%	94%	B	A	
			1 8 教師	進んであいさつができるように指導している。	A+B A-90% B-80% C-70%	100%	90%	A	A	
			⑭ 生徒	自律清掃(無言、見つけ)を通し、自分の心を磨いていると感じる。	Aのみ A-65% B-50% C-35%	49(96)	41(92)	C	C	
			2 9 教師	自律清掃(無言、見つけ)を通して心を磨く指導をしている。	A+B A-90% B-80% C-70%	90%	100%	A	A	
3	豊かな心と健やかな体を育てる	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒 【2. 具体的な取組み(Plan)】 ○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・鳥越・河内地域での職場体験学習 ・城山旧道整備と鳥越の歴史に関する講話 ・鳥越体育祭や夏祭りでのボランティア活動 ・道徳の授業の工夫(地域教材の活用、地域GTの活用) ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	⑮ 生徒	地域に愛着や誇りを持っている。	Aのみ A-70% B-60% C-50%	50(90)	46(92)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 生徒の「よくあてはまる」と答えた割合は下がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は生徒、保護者、教職員の回答は高い評価であった。これは城山旧道整備、花いっぱい運動等、生徒が主体的に活動したこと、教職員も生徒と共に地域への貢献活動をしたことによる。生徒の掲示には愛郷心あふれるものが多く見られた。 【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校である。また、家庭からの期待も高いことがわかる。生徒の愛郷心をさらに高められるように、今後も継続して地域の活動に参加したり、行事や授業等での地域人材の活用を進めたりして地域や家庭に対して、生徒の良さを積極的に発信していくことが必要である。 ○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなどふり返らせる機会を継続して持っていく。	(前期) ・学校の運動会で鳥越の伝統的な踊りをやっているのがびっくりした。良いことである。
			⑩ 保護者	子どもは、地域に愛着や誇りを持っている。	A+B A-80% B-70% C-60%	82%	88%	A	A	
			2 1 教師	地域に愛着や誇りを持って取り組んだ。	A+B A-90% B-80% C-70%	89%	90%	B	A	
